

# 中国語における疑問文の文音調と 文末上昇イントネーションに関する試論

関 光 世

## 要 約

本論は、会話を主な材料として、その中から文末上昇イントネーションの疑問文を取りあげ、それらが談話において果たしている機能を明らかにしようとするものである。

先行の文に“是不是”，“对不对”，“好不好”，“怎么样”を付加した形の文末付加型疑問文について、その文末イントネーションは、形式の如何に関わらず、普通は平板調か下降調と言われる。しかし、話者の聞き手に対する強い「同意要請」が意図される場合には、文末はやや上昇することが観察された。

イントネーション疑問文には三種類の現れ方がある。発言の冒頭に現れた場合には、先行の発言に対して、自己の主張を展開したり、会話に参入する意思表示を表す応答型の機能を持つ。発言の最後に現れる場合には、聞き手に意見を求める呼びかけ型の機能を持つ。単独で現れる場合には、応答或は呼びかけのどちらにもなり得る。

この他に文末の語気助詞を省略したイントネーション疑問文と、話題（topic）だけを述べて題述（comment）の部分を省略した題述省略疑問文に言及し、後者は文音調が高く、文末が平板調から上昇調で、かつ長く伸ばすという際立った特徴があることを指摘した。

キーワード：文音調，文末の上昇調，談話機能，文末付加型疑問文，イントネーション疑問文

## はじめに

本論は会話における疑問文のイントネーションの効果的な指導方法を模索するためのとりかかりとして、音声資料<sup>1)</sup>を使用し、会話を主な材料として文音調と文末イントネーションを観察し、その中から文末上昇イントネーションの疑問文を取りあげ、それらが談話において果たしている機能を明らかにしようとするものである。

## 1. 問題提議と先行研究

### 1.1. 問題提議

中国語教育の現場ではイントネーションの指導に十分な注意が払われていないのが現状である。

《汉语普通话语音辨证》では、中国語のイントネーションを文全体の均等な高低（文音調）と文末の上昇下降（文末イントネーション）の二つに分けて定義している<sup>2)</sup>。それによると文音調には高、中、低の三種類があり、文末イントネーションには上昇と下降の他に、上昇でも

下降でもない平板イントネーションがある（本論ではそれぞれ上昇調，下降調，平板調と呼ぶことにする）。さらに疑問の語気を表すイントネーションとして，高い文音調と文末の上昇調の二つが挙げられている<sup>3)</sup>が，日本ではこの文音調について指摘しているテキストは多くない。『実用漢語課本』[日本語版]<sup>4)</sup>では個別の疑問形式について文音調と文末イントネーションの両面から解説しているものの，文音調を高音調と低音調の二種類に分けている点で《汉语普通话语音辨证》ほど詳細ではない。『話す中国語』北京篇1<sup>5)</sup>では文末イントネーションに関する記述はあるが，文音調については触れられていない。

文末イントネーションについても，一般的に前後の文脈や話者の心的態度を十分に考慮せず，単文のみを取り立てて例として解説することが多かった<sup>6)</sup>。従って，実際の会話における多様なイントネーションへの対応は学習者の語感に頼る部分が多い。

以上から，中国語学習者に対する効果的なイントネーション指導のためには，文末イントネーションだけではなく文音調にも注目し，それらの談話的な意味や話者の心的態度との関係を明らかにすることが必要かつ有効であると考えられる。

そこで，本論ではまず二種類の疑問文（文末付加型疑問文とイントネーション疑問文）をとりあげる。

文末付加型疑問文<sup>7)</sup>は形式的には諾否疑問文（“是吗”，“对吗”，“好吗”，“行吗”など），疑問詞疑問文（“怎么样”），正反疑問文（“是不是”，“好不好”，“对不对”など）に分かれ，この疑問文の文音調と文末イントネーションに関するまとまった記述は見あたらない。

筆者は音声資料の観察過程で“是不是”，“对不对”，“好不好”，“怎么样”の付加型には，少数ではあるが文末が直感的にやや上昇していると思われる例文が存在することに気付いた。しかもそのイントネーションは形式に関係なく観察される。以下の例を参照されたい。

- (1) 听说，你有一道萝卜菜绝活儿，“水淹七军”。百吃不厌，是不是？↘  
（何回食べても嫌にならないんだって？）
- (2) 人呢，绝了不少动植物的种子，这可是真的，是不是？↗  
（人間が多くの動植物の種を減ぼしてきたってことは本当のことさ，そうだろう？）
- (3) 你别在我身边来回溜达好不好？↘  
（私の周りをうろろしないでくれるか？）
- (4) 我希望我们两个刊物之间不要出现什么不愉快的局面，好不好？↗  
（我々両誌の間がこじれないようにしたいんだ，いいだろう？）

《编辑部的故事》

文末付加型疑問文については，文音調と文末イントネーションに注意しながら，一部の付加型で観察される上昇の現象がどのような状況のもとで起こり，またそれが話者のどのような心的態度を表すものかを明らかにしたい。

次にイントネーション疑問文における上昇調の談話機能について考察する。本論では下例

(5)の①のような、疑問形式を持たず、高い文音調と文末の上昇調に依存した疑問表現を「イントネーション疑問文」<sup>8)</sup>と呼ぶことにする。

(5) 外 賓：请问，到天安门还有几站？

售票员：三站。你们会说汉语？ … ① 《汉语会话 301 句》

(君たち、中国語がしゃべれるの?!)

?? 三站。你们会说汉语吗？ … ①'

“你们会说汉语？”と“你们会说汉语吗？”は初歩的には同じ意味だと説明されている<sup>9)</sup>。しかし実際の会話では両者の変換は必ずしも成立しない。このような矛盾を説明するには、談話分析の視点が不可欠である。

さらに、これまでの指摘によるとイントネーション疑問文には相手に対する問いかけの気持ち<sup>10)</sup>弱いか或いは全く持たないものがあると言う<sup>11)</sup>。上昇調はこれまで「疑問のイントネーション」, 「〈問いかけ〉を表す」などといわれてきたが、問いかけ性を持たないイントネーション疑問文において、その成立を支えている上昇調は一体どのような機能を果たしているのだろうか。

本論は、ひとまとまりの発言においてイントネーション疑問文がどの位置に現れるかによって、発話の意図が異なることに着目した。これを手がかりに、イントネーション疑問文における上昇イントネーションの談話機能について考察する。

## 1.2. 先行研究

上昇調の意味機能についての代表的な説明は、呂叔湘、朱德熙らの「上昇調は疑問文を作る疑問のイントネーション」<sup>12)</sup>というものである。その意味機能については、80年代から90年代前半にかけての語気詞“吧”，“吗”，“呢”，“啊”をめぐる議論の中で、その論証の根拠や傍証として言及されている<sup>13)</sup>。そこでの議論を参考に邵敬敏(1996, p. 74)は、上昇調は、〈問いかけ〉<sup>14)</sup>つまり相手に対して答えを要求するという話者の態度を表すと指摘した。

イントネーション疑問文について特に取り上げて論じた研究は刘月华(1988)以外には見当たらない。邵敬敏(1989)、王志(1990)、楊立明(1992)、袁毓林(1994)では一部言及されている。袁(94, p. 156-158)は蘇州方言の“啊VP”が諾否疑問文か正反疑問文かを論ずるとりかかりに、諾否疑問文の多様性としてイントネーション疑問文と“吗”型諾否疑問文の意味的、構造的対立を挙げている。邵(89)と王(90)はイントネーション疑問文に含まれる問い返し疑問文に関する研究である。

刘(88)は「上昇調のみが疑問情報を担うような疑問表現」を“语调是非问句”<sup>15)</sup>と命名し、その意味機能として、直前発話に対する疑いと驚きの表出と確認を挙げている<sup>16)</sup>。さらにこの種の文の一部は、話し手が答えをすでに予見しており、〈問いかけ〉の意味が弱いという点で“吗”字疑問文とは異なることを指摘している。

楊 (92) は実験による比較を通して、イントネーション疑問文と“吗”字疑問文では音調パターンが異なることを指摘した。同じ上昇調でも具体的な音調パターンの異なる上昇調が存在することになり、上昇調の中身を研究することの可能性を示唆しており興味深い<sup>17)</sup>。

## 2. 文末付加型疑問文について

### 2.1. 問題の所在と先行研究

新たにディクテーションした音声資料4作品において、前章で述べた文末付加疑問文のうちやや上昇調と思われる例文は、31例中10例を占めた。数字から言えばこのような例は少数派で特殊なものとして位置づけることができる。

この種の疑問文の意味機能について、『話す中国語』では、付加型のタイプを“是不是”，“对不对”と“好不好”，“怎么样”の二組に分け、前者は相手に確認する疑問文、後者は相手の意向を聞く疑問文の形をした提案の文であると説明している<sup>18)</sup>。邵 (96, p. 128) は、前者は相手の態度を伺う傾向が強く、後者はある事柄について同意するか否を問う文である、としている。本論ではこれを念頭において観察を始めることとする。

### 2.2. “是不是”，“对不对”の付加型について

先行文(S) + “是不是” 或いは “对不对” の付加型において、Sは状態を表すものと動作行為を表すものがあり、やや上昇調と思われるイントネーションはSの区別に関係なく観察される。

以下の例を参照されたい。例(6)から(11)まではSが状態を表すもの、例(12)から(14)は動作行為を表すものである。また文末の矢印は文末イントネーションを表す<sup>19)</sup>。

- (6) 有病了是不是? \ (頭がおかしくなったんじゃないの?)
- (7) 哦, 知道取了您那个水淹七军, 是不是? \  
(「水淹七军」をわれわれが頂いたってことに気付いたんだね?)
- (8) 用文言说就是粗, 是不是? /  
(書き言葉で言えば「粗野である」ってことよ, そうでしょう?)
- (9) 他没长什么瘤子, 是不是? / (顔にこぶがあるわけじゃないだろ?)
- (10) 我们呀, 对张名高啊, 也非常生气, 对不对? /  
(我々も張名高には怒っているんだ, そうだろう?)
- (11) 我们都已经做着吃了。有萝卜, 有芹菜, 韭菜, 茴香, 葱姜, 胡萝卜, 对不对? \  
(せり, にら, ウイキョウ, ねぎにしょうが, にんじんが入っていたんですね?)
- (12) 拿我开涮是不是? \ (私をからかおうって言うの?)
- (13) 你们起哄了, 是不是? \ (私を冷やかしてるの?)

(14) 老牛，这说明他们干得好。要不人家还不愿意给呢，是不是？↗

(…そうでなきゃ向うだってくれやしないよ， そうだろ？)

次に発話の意図に注目して以下の例を比較したい。

(15) 李冬宝：我说你怎么不早说？ 逗我，是不是？↘ (からかってるのか？)

余德利：我这不是刚想起了吗？诶，问地址不问？

第十九集《水淹七军》

(16) 戈 玲：就是。听说，你有一道萝卜菜绝活儿，“水淹七军”。百吃不厌，是不是？↘

(いくら食べても飽きないんでしょう？)

王大爷：不知道。没听说过。

余德利：不说，是不是？↘ 王大爷就是您不够意思了。您实诚了一辈子了。

(教えないって言うのか？)

第十九集《水淹七军》

例(15)でSは自問自答の答えに相当し、自分の出した答えについて、聞き手に判断を問うている。例(16)では話者が自分の判断についての是非を問うている。いずれの例も、答えが予見された状態で、聞き手の判断を確認する意図があると理解できる。では以下の例はどうだろうか？

(17) 牛大姐：就是嘛。诶，世界万物都是人创造的，只要人想干，有决心，那原子弹都爆炸了，何况个胖子呢？

王师傅：这您可就差说了。世界万物是原先就有的，人才是后来的。人呢，绝了不少动植物的种子，这可是真的，是不是？↗

牛大姐：反正啊，我不跟你争这个。你这么胖啊，就是因为太放纵自己，否则我们大家为什么没你那么胖啊？大家都是人嘛？

王师傅：哎呀，这牛编辑，我跟您说，这人跟人还不一样。有人不穿衣裳他就冒汗，是不是？↗ (服を着なくたって汗をかく人間もいるんだよ， そうだろ？)

第八集《胖子的烦恼》

(18) 陈主编：喂，萝卜大丰收的消息大家都听说了吧？<sup>20)</sup>

大伙儿：听说了，听说了。

陈主编：现在是满载着萝卜的车队已经浩浩荡荡地从农村开进城市了。

余德利：真快。

陈主编：由于数量大，卸车不及时，造成了部分地区的交通紧张。那么各单位呢，都派人帮助卸车，那咱编辑部也不能落后啊。

大伙儿：对对对。

陈主编：农民兄弟为咱们种出了萝卜，运进城来，咱们帮助他们也就是帮助了咱们自己，对不对？↗ (彼らを手伝うってことは自分達を手伝うってことだよ， そうだろ？)

大伙儿：没错。

牛大姐：你不用再给我们做**动员**了。这点儿道理大家都明白。咱们去就是了。

(动员をかけなくたってそのくらいのことわかってるわ。)

第十九集《水淹七军》

例(17)は皆からダイエットを勧められた王さんが抵抗して、自分はどうしても痩せられない体質なのだと皆を説得しようとしている。例(18)で陈さんは編集部員をボランティア労働に駆り出そうと試みている。陈さんの発話の意図はまさに牛大姐の言うとおり皆を「动员」することにあった。この二例の発話意図は「説得」であり、話者から聞き手に対する強い「同意の要請」という意図を持った行為である。この点で例(15)(16)とは大きく異なる。

さらにSを比較してみると、文末イントネーションが異なるものでは、Sにも相違点が見られる。

第一に、文脈の中での文の意味を変えないという前提で、やや上昇調の文から付加成分を省略しても、Sは平叙文として自然であり、文全体の表す意味には影響しないが、上昇が観察されない文から付加成分を省略した場合、Sは疑問文として理解しなければ不自然になる。

第二に、Sを情報としてとらえた場合、やや上昇調の文ではSはすでに定まった話し手の主張・判断であり、既定の情報と言える一方、上昇が観察されない文のSはこれから判断を決定しようとしており、その意味で未確定の情報である。両者はSの確定性という点で違いがある。

以上の考察から、S+“是不是”，“对不对”の基本義は聞き手の判断を求めることにあるが、話者が聞き手に対して強い「同意要請」を意図した場合には文末がやや上昇すると言えそうだ。

### 2.3. “好不好”，“怎么样”の付加型について

S+“好不好”，“怎么样”の付加型ではSは動作行為を表す。初歩的な観察によると、この付加型では上昇はほぼ観察されない<sup>21)</sup>。他の付加型とは異なり、例(21)から(23)のように命令文がSを構成するのが特徴である。以下の例を参照されたい。

(19) 我给你调个人来，怎么样？↗（人を回してあげるよ，どうだい？）

(20) 小戈，我给他写点儿意见怎么样？↘（戈さん，俺が彼に意見を書いてやろうか？）

(21) 我说王师傅，你别在我身边来回这么溜达好不好？↘

（王さん，私の周りをうろろしないでくれるか？）

(22) 我说咱们别互相吓唬好不好？↘

（お互いに脅かしあうのはやめましょうよ。）

(23) 你别逼着我好不好？↘（無理強いしないでよ。）

例(19)と(20)を文脈の中で再度観察してみる。

(19) 李社长：我给你调个人来，怎么样？↗ 啊？别净当胡传奎嘛，手下多几个兵儿总是

好的嘛。

陈主编：不必，不必。我们这儿人啊，够用的了。已经有时间自己在窝里斗一斗的了。

第八集《胖子的烦恼》

(20) 王师傅：是。嗨，这一写得忒臭了，这个。就这还想蒙编辑部呢，这？小戈，我给他写点儿意见怎么样？\

戈 玲：别，别，千万别。你就规规矩矩地写个那个退稿签就行了。

第八集《胖子的烦恼》

例(19)は出版社の社長が編集部を訪れ、既に決まっている人事について説明する状況での発話である。

話者と聞き手の社会的立場という語用論的要素を考慮すれば、既に確定している事項について編集部の職員に説明しているのであり、相手の意向を聞くまでもなく、強く同意を要請する意図であることがわかる。それに対して例(20)の「彼に意見を書く」というのは王师傅の提案である。

次に命令文がSを構成している文について観察する。

(21) 王师傅：不是，我这人呢，我跟您说，我闲不住。一闲这我放困。您，我平常…，这…。

刘书友：我说王师傅，你别在我身边来回这么溜达好不好？\这分散我的注意力。

第八集《胖子的烦恼》

(22) 李冬宝：凭什么呀？啊？凭什么我跟戈玲死啊？要我说啊，你跟老刘死，牛大姐伤。

戈玲跟我劫后余生，是不是？

牛大姐：你们缺德不缺德？我哪儿招你们呢？让我里外都没有好下场？

戈 玲：我说咱们别互相吓唬好不好？\其实余德利也是好心，他是劝老刘啊，多吃点儿。

第二十一集《飞来得星星》

(23) 李冬宝：什么事儿都得做最坏的打算。你该这么想，咱得当个全乎人儿吧，我何尝不想找个称心如意的，相敬如宾白头到老，可是总共没几天活头，好人，发挥不了几天优势，坏人也坑害不了我半点儿了，真的，…。

戈 玲：诶，诶，诶。你别逼着我好不好？\你得让我好好想想。

第二十一集《飞来得星星》

上の三例では話者が引き続き話し続けていることから、意向を伺うための発話でないことは容易に理解できる。しかも文中から“好不好”を省略しても基本的な意味は変わらない。従ってこれらは疑問形式を借りて婉曲にした命令、つまり要請(上の場合は「禁止要請」)の文であると考えられる。なお、“怎么样”の付加型には婉曲的な命令、要請の意味はない。

以上の考察から、S+“好不好”、“怎么样”の付加型の基本的な意味は、動作行為について「相手の意向を聞く」ことであり、疑問文の形式ではあるが「提案」を意図していることが確

認できた。さらに“好不好”は命令文に付加されて婉曲的な命令、要請を表す場合があり、この場合の文末は基本的に下降調であることが観察できた。そして他の付加型と同様、話者に強い「同意要請」の意図がある時には文末がやや上昇すると考えられる。

#### 2.4. まとめと課題

本章で取り上げた文末付加型疑問文では、形式の如何にかかわらず話者が聞き手に対して強い「同意要請」という心的態度を持って発話する時には、文末は他とは異なりやや上昇することが観察された。

文末付加型疑問文は発言の最後に或いは単独で現れるのが極めて優勢であり、それぞれの付加型の基本義と合わせて考えれば、この疑問文は話者から聞き手へ働きかける呼びかけ型の疑問文であると言える。

文末付加型疑問文の音調と文末イントネーションについては、“我给你买帽子，好吗？”のような諸否疑問文形式のものについては『实用汉语課本』「先行の文は低音調で，“好吗？”の部分が高音調となり、文末は上昇調となる」と説明されている (p. 443)。しかしその他の形式については各文形式に属するものとして扱われており、正反疑問文と疑問詞疑問文はいずれも「高音調で、文末は平板調からやや下降調」(《汉语普通话语音辨证》, p. 189) である、或いは『实用汉语課本』(p. 369, 391, 392) で、「高音調で文末は下降調」との記述しかない。先行文と付加部分それぞれの文音調、付加部分の文音調のパターンと文末イントネーションの関係、さらに直感的にやや上昇調と感じた文末イントネーションの実体を含め、次の課題として実験的な手法を用いて別稿にまとめたい。

### 3. イントネーション疑問文における上昇調

ここではひとまとまりの発言の中でイントネーション疑問文が現れる位置を手がかりに、その談話機能と話者の心的態度について考察する。

イントネーション疑問文が出現する位置は発言の冒頭が多数を占め、その他発言の最後か単独で現れる場合がある。

#### 3.1. 発言の冒頭に現れるイントネーション疑問文について

発言の冒頭に現れるイントネーション疑問文は、例 (24) から (26) のように話者が直前発話の表層だけを取りあげてその全部或いは一部を繰り返すものと、例 (27) のように直前発話の情報を理解した上で、言い換えなどの操作を加えて問い返すものに分けられる。これらを「問い返し疑問文」と言う。ただし、例 (27) のように、直前発話の情報を理解した上で新たな情報を加えている場合は問い返しとは言えない<sup>22)</sup>。

(24) 陈主编：胡闹嘛！怎么可以这样对待自己的同志呢？

李冬宝：减肥嘛。

陈主编：减肥？我看这是减寿！你这样侵犯王师傅的公民权利，嗯？

(ダイエットだって?!)

第八集《胖子的烦恼》

(25) 戈 玲：你别说那么玄乎啊。万一掉海里了，小国家最合适，命中率低啊。

余德利：掉海里？最起码也是海啸，像那什么日本呢、夏威夷、汤加、新加坡这小国肯定淹了，淹了。到咱们这儿最起码掀起二三十层楼那么高的浪。

(海におちるだって?)

第二十一集《飞来得星星》

(26) 戈 玲：我们俩现在是江郎才尽了，就看您了。您给来两句。算帮一忙儿。

王师傅：我？不成，不成！不成。还寄语呢。你看，我有那段肠子吗？

(私が? だめだめ。寄语だなんて。そんな才能あるように見えるかい?)

第八集《胖子的烦恼》

(27) 戈 玲：王师傅，您能躺下吗？

王师傅：躺这儿？地不干净，一天到晚走来走去的。

牛大姐：嗨，嗨嗨！现在是锻炼！哪能那么多讲究？

(ここに横になるのか?)

第八集《胖子的烦恼》

直後に発話が続く場合のイントネーション疑問文は問いかけの度合いが明らかに低い。例(26)と次の例を比較されたい。

(28) 刘书友：这我不懂，时间的尽头就是时间，时间就没有尽头。

李冬宝：可是对于人来说呢？譬如说对你。

刘书友：我？(わたし?)

戈 玲：对呀，时间对您就是有尽头的。尽头是什么？死亡啊。

第七集《有人好办事》

例(28)の“我？”は単独で現れた問い返し疑問文で、直前の発話に対して意外性を発見し、驚きを表明したものである。それに対して例(26)では、“我？”を省略しても何ら影響はなく、この発言全体の重点は“我？”に続く話者の主張にある。疑問形式ではあるが何らかの疑いが有るのではなく、答えを求めているのでもない。ここでは相手の発言を受けて、これからその話題について主張を展開することの標識としての機能を果たしていると考えられる。また、上の諸例からも明らかのように、後ろに続く主張は話者の不同意、不満の態度を表している。

直前発話以外に先行発話を受けて発言するイントネーション疑問文もある。下の三例では、話者は直前まで会話に参加していないが、先行の会話を傍聴して話題を理解しており、なおかつその話題に対する自分の考えを持っていることがわかる。

(29) 李冬宝：你说吧，现在安一电话怎么那么贵呀？

刘书友：贵还不一定安得上呢，我那初装费都交了三年了，烟就送了十好几条了，到

现在还没给号呢。

余德利：哎，你说装电话费呀，打电话便宜？我们街坊一哑巴安一电话，不到半个月，嘿，寄来一条儿，电话费一万多块呀。

（電話線を引く費用のこと？じゃあ電話をかけるのは安いって言うのか？）

第七集《有人好办事》

(30) 李冬宝：…诶，老陈，说定了。封面就用小桔子了。

陈主编：行了，行了。刚才我不是已经同意了吗？

牛大姐：封面用小桔子？不行，不行。哎呀，老陈，你这么凑合可不行啊。这封面用小桔子合适吗？（表紙に小さなみかんを載せるですって？）

第四集《小保姆》

(31) 李冬宝：德利，你不是跟广告公司熟吗？你给问问，像她那姿势的当模特儿行吗？

余德利：要是有人做棉花，茄子的广告，她才能上电视拍一拍，别的…。

李继红：你认识拍电影儿的？什么女三号、女四号的我都行啊。我会演戏。在我们村，我竟演七仙女，祝英台什么的，都是财主家的闺女。

（映画を作る人と知り合いなの？）

第四集《小保姆》

これらの例も直後に話者の主張や見解が続くことから、相手に疑問点を問いかける意図はなく、先行の発話を受けて、話者が会話の流れをこれから自分が主張を展開する話題に転換すると同時に、現在進行中の会話に新たに参入する意思表示としての機能を果たしている。この時の話者の心的態度はやはり不同意、不満である。

### 3.2. 発言の最後に現れるイントネーション疑問文について

イントネーション疑問文が発言の最後に現れる場合、ある事柄についての話者自身の結論や判定が先行している。従って「問い返し疑問文」ではありえない。以下の諸例からも明らかのように、先行発話ですでに結論が出ていることから、この時のイントネーション疑問文は疑問形式ではあるが、その内容に対して話者が全く疑いを持っていない。以下の例を参照されたい。

(32) 刘书友：照你这么说，那谁都有缘分了。我跟你这么对面坐着也是有缘了？

（私たちがこんな風に向かい合って座ってるのも縁があるって言えるのかい？）

牛大姐：哼，咱俩坐一辈子也是个同志。

第七集《有人好办事》

(33) 陈主编：诶，你这个稿子不能用啊。

余德利：怎么了？

陈主编：它这个磁疗浴液没有经过国家鉴定。一个乡镇企业，它就敢批量生产？

余德利：这个稿儿可带着钱呢。

(郷鎮企業が大量生産できるって言うのかい?)

第八集《胖子的烦恼》

(34) 老 徐：这样啊，我那儿啊，还有一篇好稿子，是写咱这个中国这几亿烟民的。我把它让给您，这，这总可以了吧？

老 陈：老徐呀，我们这不是做买卖，你的东西便宜我就买你一些？

(商売じゃないんだから、安ければ良いってものじゃないだろう?)

第十一集《吃不消》

(35) 戈 玲：哎，你们怎么知道的？你们都知道？

李冬宝：哪还能不知道，啊。早流言蜚语满社传了，你不知道？

(会社中噂だらけだよ、知らないの?)

戈 玲：这不好。我自己个人的私事我还不知道呢，你们先知道了。

第六集《无中生有》

さらに、例 (33), (34), (35) におけるイントネーション疑問文のあとの聞き手の反応を見ても、正面から相手の問いに答えるというよりは、相手の発話を引き継いで、話題となっている事柄に対する見解を述べているに過ぎない。

従ってこのような状況におけるイントネーション疑問文には話者が聞き手に対して自己の発話を受けて会話を引き継ぎ、発言することを促す、或いは意見を求める標識としての機能を果たしていると言える。上の諸例で観察された話者の心的態度は、話題となっている事柄に対する不満、不同意、批判、訝り、意外性を感じた驚きなどである。

### 3.3. 単独で現れる場合

イントネーション疑問文が単独で現れる場合には例 (36) から (38) のように、直前発話に応答した発話と、例 (39) 及び (40) のように周辺環境から答えが予見できるような状況で聞き手に呼びかけるものの二種類がある。後者は一連の会話の最初の発話になる点が特徴的である。

(36) 李冬宝：还有戈玲。咳，她我压根儿就没算在内。

刘书友：这么说你是对老陈…？ (ってことは陳さんに…?)

李冬宝：这么说得。我就是跟自个儿过不去，吃饱了，撑的，行了吧。

第一集《谁主沉浮》(上)

(37) 李冬宝：吃归吃，吃归吃。张老师，现而今我给您指条明道儿，您走不走？

张名高：我还有救儿？ (私にもまだ望みがある?)

余德利：太有了。您不就是错了吗？这儿有什么呀？

第十二集《吃不消》

(38) 陈主编：哎，小余，关于增收方面，以后你多做些工作。

余德利：您肯放权给我？（権限を譲ってくれるって言うんですか？）

陈主编：这一方面你完全可以作主。

第二集《谁主沉浮》（下）

上の諸例では、話者は直前の発話に意外性を発見し、驚きの気持ちを表している。例（36）のように相手に意見を求める場合もある。

(39) 刘书友：诶，老陈。会议结束了？（会議は終わったの？）

陈主编：诶？啊。

牛大姐：哟，老陈回来了。

第八集《胖子的烦恼》

(40) 牛大姐：哟，戈玲来了？（戈玲，来てたんだ。）

刘书友：你早阿。

余德利：诶，戈玲，你可真早！

第四集《小保姆》

例（39）及び（40）ではイントネーション疑問文の表す意味は目の前の事実から明らかなことであり、話者の発話意図が訊ねることではないことは明らかである。これは相手に対する呼びかけと考えるのが妥当であろう。またここでは話者の驚きが含まれていることがわかる。

単独で現れるイントネーション疑問文は文脈によって応答と呼びかけの標識として機能することができ、話者の驚きを含んでいる。

### 3.4. まとめと今後の課題

本章では、イントネーション疑問文における上昇調の談話機能についてその現れる位置に着目して考察した。その結果、発言の冒頭に現れるイントネーション疑問文は、直前或いは先行の発話を受けて、これから自分の主張を展開する、又は会話に参加しようとする意思表示としての「応答」型の談話機能を果たしており、発言の最後に現れるイントネーション疑問文は、聞き手に自分の発言を受けて会話を引き継ぎ、発言することを促す、或いは意見を求める「呼びかけ」型の談話機能を果たし、さらに単独で現れるものは文脈によっていずれの機能を果たし得ることを指摘した。

イントネーション疑問文において上昇調だけがこの形式を支える要素であったことを考えれば、これらの機能は上昇調が担っていると考えるのが自然である。

談話において聞き手に対する「応答」と「呼びかけ」の機能を果たし、話者の不満、不同意、訝り、批判、驚きなどの心的態度を表すというイントネーション疑問文の特徴から、これらが感嘆詞の役割<sup>23)</sup>に近いことに気づく。イントネーション疑問文と感嘆文との類似性についても、感嘆文の文音調や文末イントネーションとも合わせて今後の課題としたい。

## 4. 省略の観察される疑問文について

前章までの考察で音声資料を観察してきたが、その過程で、文の一部が省略され、疑問形式を持たない疑問表現となっている文を発見したので、これについて初歩的な観察を行なった。

これまでイントネーション疑問文は“吗”型諾否疑問文の省略形のように理解され、邵(96)によって、“吗”だけでなく“呢”疑問文の省略形でもあることが指摘されている<sup>24)</sup>が、省略が観察される疑問文は文末語気助詞の省略だけではない。話題(topic)の部分だけを述べて、題述(comment)の部分を省略した形の疑問文もある。しかもこの疑問文にはイントネーション疑問文とは異なる特徴が見られる。

### 4.1. 文末の語気助詞を省略した疑問文

文末の語気助詞を省略した疑問文には以下のようなものがある。例文中の( )は省略されていると思われる内容を補ったもの。

#### a) “吗”の省略

イントネーション疑問文の中には“吗”の省略形と考えることができるものがある。この時のイントネーション疑問文と“吗”型諾否疑問文の違いは、語気の強さの違いに過ぎない<sup>25)</sup>。また、どちらかを選択しやすい状況も存在する<sup>26)</sup>。

(41) 李冬宝：怎么着？决定下来了吗？

李继红：决定了。我爸这么教导过我，会练的不说，会说的不练，柿子要捡软的捏，人要找老实的欺负。

李冬宝：你爸真这么说（吗）？（君のお父さん、本当にそう言ったの？）

李继红：大概就是这个意思吧。我爸一肚子至理名言，听了哪句都不会吃亏的。

李东宝：看得出来，你是随你爸的啊。

李继红：嗯。

李冬宝：这么说，你决定跟老王走（吗）？（じゃあ、王さんに決めたの？）

李继红：嗯，走吧。回头要个车。

第四集《小保姆》

“吗”が省略されない場合の文末イントネーションについては諸説<sup>27)</sup>あるが、省略された場合は必ず上昇調でなければならない、文音調はどれも高い。

#### b) “呢”の省略

(42) 李冬宝：帮我看看，放这儿怎么样？

余德利：我不能干那赔本赚吆喝的事。

戈 玲：不好看。

李冬宝：放这儿（呢）？（ここに置くのは？）

戈 玲：不合适。

李冬宝：要不搁这儿（呢）？（じゃあここは？）

戈 玲：你搁那儿还不如不搁。

第一集《谁主沉浮》

(43) 余德利：哎，你们经理呢？

甲：哪位经理啊？

余德利：李俊明。

甲：李俊明他今天不在。

余德利：那李晓明（呢）？（じゃあ李晓明社長は？）

第十一集《吃不消》

上の二例の文音調はいずれも高く、文末は上昇調である。

例(42)の“呢”は“怎么样？”，例(43)の“呢”は“今天在不在？”に相当する<sup>28)</sup>。

c) “吧”の省略

(44) 老 徐：老陈，那个张名高，他有篇稿子在您这儿（吧）？

（彼の原稿が貴方のところにあるんでしょう？）

陈主编：哪篇？我这儿有他好几篇呢。

第十一集《吃不消》

上の例は高音調で文末は上昇調である。文脈から判断して“吧”が省略されたものと考えることができる。“吧”は「具体的な動作を表す動詞に付加された場合には穏やかな命令（勧誘）と推定を表す時があり、前者は文末が「低め」、後者は「高め」である。」（『話す中国語』教授用資料 p. 2）例(44)のように状態を表す動詞の時は推定の意味だけしかない。“吧”が省略されない場合の文末イントネーションについてはこれも諸説<sup>29)</sup>あるが、省略された場合は上昇調でなければならない。

#### 4.2. 題述 (comment) を省略した疑問文

話題 (topic) の部分だけを述べて、題述 (comment) の部分を省略した形の省略疑問文がある。この時省略される部分は文脈から話者と聞き手の間で明らかでなければならない。

a) 疑問詞の省略

文脈から訊ねている内容が明らかであれば疑問詞を省略する。この種の省略疑問文には文音調が高く、文末は平板調と思われるものもあれば上昇調と思われるものもある。また文末を長く伸ばす。

(45) 戈 玲：这是怎么回事儿啊？她的工作就是带孩子呀。

老 王：哎呀，你别提这带孩子了，我一跟她提呀，她就拿孩子撒气。

李冬宝：这位是…（谁）？（こちらの方は？）

老 王：噢，她是我爱人。

第四集《小保姆》

(46) 彼 得：这是你们全家的合影吧？

赵 林：对。这叫全家福。你看，我们家是四世同堂。

彼 得：中间坐着的是…（谁）？（真ん中に座っているのは？）

赵 林：我奶奶。

《速成汉语初级教程》综合课本（2）<sup>30)</sup>

b) 疑問情報以外の省略

これまでの省略は全て疑問情報の省略であったが、ここで省略されるのは、直前発話で述べられた情報或いは直前発話をもとに話者が予見した答えの部分である。この種の省略疑問文でも文音調は高く、文末は平板調と思えるものもあり、上昇調と思えるものもある。また文末を長く伸ばす。

(36) 李冬宝：还有戈玲。咳，她我压根儿就没算在内。

刘书友：这么说你是对老陈（有意见）…？（じゃあ陳さんに意見があるっていつの？）

李冬宝：这么说得。我就是跟自个儿过不去，吃饱了，撑的，行了吧。

第一集《谁主沉浮》（上）

(47) 李冬宝：那咱们地球呢？

假预言：飘到太阳系外头去了，你们都琢磨琢磨，啊。这两球相撞死一半人，那是便宜。

李冬宝：那你的意思是（我们没有活路了）？（じゃあもう望みはないってこと？）

假预言：一个也甬活，就是不死，也得在太空里悬着，坚持不了多大会儿。

第二十一集《飞来得星星》

4.3. まとめ

省略の観察される疑問文には文末の語気助詞を省略した形のもの、話題（topic）の部分だけを述べて、題述（comment）の部分省略した形の疑問文がある。前者の文音調は高く、文末イントネーションは上昇調である。これらはイントネーション疑問文と考えて良いだろう。一方後者には文音調が高く、文末イントネーションは平板調から上昇調で、かつ文末を長く伸ばすという特徴がある。この文は文末イントネーションと言うよりはむしろ高い文音調に依存した疑問文であると言えるため、イントネーション疑問文とは別に、題述省略疑問文と名付けることにする。

## 5. ま と め

以上、二種類の疑問文において上昇調が果たしている談話機能について考察した。

第一に、“是不是”，“对不对”，“好不好”，“怎么样”型の文末付加型疑問文において、話者の聞き手に対する強い「同意要請」が意図される場合には、いずれも文末がやや上昇することが観察された。

第二に、イントネーション疑問文が発言の冒頭に現れた場合には相手の話を引き継ぐ応答型の機能を持ち、発言の最後に現れる場合には聞き手に意見を求める呼びかけ型の機能を持ち、さらに単独で現れる場合には、応答と呼びかけのどちらにもなりうることを指摘した。その結果イントネーション疑問文の談話機能と、それが表す話者の心的態度には感嘆詞と重なる部分が多いことが分かった。この辺りは今後の課題としたい。

第三に、文末イントネーションと言うより文音調に依存したと思われる疑問文に気づき、話題 (topic) だけを述べて題述 (comment) の部分を省略したこのような疑問文を「題述省略疑問文」と名付けた。さらにこの疑問文は、文音調は高く、文末は平板調から上昇調、かつ文末を長く伸ばすという特徴を持つことを指摘した。

本論の議論は出発点が語感のみに頼っているという欠点がある。中国人インフォーマントに判定を受けたとはいえ、文末イントネーション及び文音調には個人差もあり、判断が難しい。音声処理などの科学的手法を用いる必要性を強く認識している。特に文末付加型疑問文の各形式を対象にした文音調と文末イントネーションの分析は本論で扱うことができなかったが、その意義と必要性を感じており、次の課題として取り組みたい。

本論の主な目的は中国語教育の現場におけるイントネーション指導に資するような材料を提供することであった。本論で指摘した、イントネーションの談話機能や話者の心的態度との関係は、学習者に対するより具体的なイントネーション指導を可能にするために有意義であると考えられる。

### 注

- 1) 《编辑部的故事》全 24 話 (北京电视艺术中心音像出版社 脚本: 王朔, 冯小刚) を音声資料として採用した。筆者は未だスクリプトの出版されていない作品のうち 4 話について VCD をもとにディクテーションを行ないながら用例を収集した。また、すでにスクリプトの出版されている 9 話からも用例を収集した。その過程でインフォーマントとして、30 代後半、湖北省出身、北京在住三十年の中国人女性に文末イントネーションの判定を依頼した。
- 2) 《汉语普通话语音辨证》ではイントネーションを次のように定義している。“句调是指一句话声音的高低升降的变化。汉语句调的高低变化表现为全句均衡地升高或降低。全句声音较高的叫高句调, 声音较低的叫低句调, 不高也不低的叫中句调。句子末尾上升的叫升调句尾, 句子末尾下降的叫降调句尾, 不升也不降的叫平调句尾。句调的高低和句尾的升降变化可以区别不同的语气。”(p. 186) “语气”とは「概念の内容が同じである文に使用目的の相違に起因して生じる違い」(呂叔湘 1982) と理解され、胡明扬 (81) は語気助詞と感嘆詞の意味を詳細に既定する中で、「語気は (1) 語気詞, (2) イントネーション

- ン、(3) その他の語気を表す語、によって表出される」とし、呂は語気の出出にとってイントネーションは必須のものである (82, P. 257) と述べている。いずれにしてもイントネーションは語気表出の重要な手段であると認識されていることがわかる。
- 3) 《汉语普通话语音辨证》p. 186 を参照されたい。
  - 4) 『実用漢語課本』[日本語版] BOOK1 北京語言学院編 東方書店 1991 p. 367, 368, 391, 392 を参照されたい。
  - 5) 『話す中国語』北京篇1 董燕/遠藤光暁 朝日出版社 2001 p. 18, 27, 28 を参照されたい。
  - 6) 日本語学のような、イントネーションを「それぞれの発話に対して話し手の談話的な意味を積極的に表す音の高さの変化」(森山卓郎 1989, p. 172), 「それぞれの発話に対して話し手の主観を直接的に表現する声の高低変化」(中村萬里 2001, p. 45) など、談話や発話といったレベルにおける機能として捉える視点が不足しているのではないかという思いがある。森山はその上でイントネーションを、談話における情報の伝達・処理過程の標識として位置づけ、上昇調の基本的な情報伝達の意味を聞き手の反応伺いであると規定している。邵敬敏の言う〈問いかけ〉を表すという見方はこれと一致している。このような視点からの上昇イントネーションの研究にはまだ余地があると考える。
  - 7) 邵敬敏はこの形式の疑問文を正反疑問文に属する“附加問句”と呼んでいる。(1996, p. 105, 123)
  - 8) 刘月华 (1988, p. 25) はこの種の疑問文について“这种疑问句的语调必须是高扬的, 否则就不成其为疑问句, 即在这种疑问句中, 是高扬的疑问语调负载着疑问信息。我们吧这种疑问句叫语调是非疑问句”。と述べてこれを“语调是非问句”と命名した。しかし、「上昇調(のみ)が疑問情報を担う疑問表現」には疑問詞疑問文の省略形も含まれることが観察され(第4章を参照されたい)、すべてが諸否疑問文であるとはいえない。
  - 9) 朱德熙 (1982, p. 202) は“今天星期三。→ 今天星期三(吗)?”と例示し、“只要把相应的陈述句的语调换成疑问语调, 就变成了是非问句。是非问句后头可以有语气词‘啊, 吧, 吗’…”と説明している。呂叔湘 (1982, p. 283) も同様に「是非问句は、口語ではイントネーションのみを用いて表すこともできるが、多くは疑問の語気助詞を用いて表す。」と説明するのみで、いずれも両者の意味の違いについては全く触れていない。さらに陸俭明 (1993, p. 33) は、例①’で“吗”と上昇調が共起した場合は疑問の語気を強める働きはあるものの、情報という意味ではどちらかが余分なものであるとしている。
  - 10) 次節(1.2.)を参照されたい。
  - 11) 刘月华は問いかけ性の弱いものとして次のような例を挙げている。“你当我不知道, 不认识你?”, “住在这个地方还怕人?” また命令, 挨拶, 叱責, 反語などには問いかけ性は無いとしている。(88, p. 31)
  - 12) 注9) の下線部を参照されたい。
  - 13) 胡明扬 1981, 陆俭明 1982, 邵敬敏 1989・1995。
  - 14) しかし邵は、そもそも〈疑い〉と〈問いかけ〉は、はっきりと区別し得るものではないと認識しており、“语气词的主要作用是传疑, 当然也可以讯问; 而语调的作用主要是询问, 当然也可以传疑”と述べるにとどまっている。(96, p. 74) しかし森山 (89) によると、両者は異なるモダリティに属するものであり、〈問いかけ〉は、事態に対して〈疑い〉という把握をした結果、どのような態度を表す目的で発話したか、にかかわる発話・伝達のモダリティに属する。
  - 15) 注8) を参照されたい。
  - 16) 刘はこのほかに反語, 挨拶, 叱責, 命令などを同列に挙げているが、これらを意味機能としてまとめることには抵抗がある。(89, p. 29-31)
  - 17) 楊の研究は音声資料をパソコン処理し、ピッチ曲線を比較する方法を採用している。それによると“吗”型諸否疑問文(及び疑問詞疑問文)ではピッチレンジのうち下限が高くなるだけで、ピッチレンジ自体は広がらないが、諸否疑問文では上限が高くなり、下限が低くなってピッチレンジ自体が広がっていることがわかる。(95, p. 144-152)
  - 18) 『話す中国語』北京篇1 p. 27 を参照されたい。
  - 19) 現段階では語感に頼っており今後実験的な裏付けが必要なことは強く認識しているが、ここでは「明らかに他とは異なるやや上昇のイントネーションである」という意味で矢印ノとノを用いて区別

することにする。

- 20) この発話においても文末はやや上昇しているように聞こえる。胡 (81, p. 416) によると, “吧+ノ?” で疑問文となり相手が肯定することを望む文になる。“吧+ノ?” については別の説もある, 4.1. の c) を参照されたい。
- 21) この形の文ではSはこれから実行しようとする動作行為であることを考えれば, 前節の考察からも本形式において上昇調がまれであることは納得が行く。
- 22) 邵 (92) では「置き換え」, 「簡略化」及び「改造」の操作を経て直前発話を繰り返すものを問い返し疑問文として, そのうち「改造」は本論で言う「新たな情報」が加えられたものであり, 例えば以下のような例を問い返し疑問文と考えることには疑問が残る。(p. 138)
- 顾八奶奶: 是阿, 那是一点不错的。所以我想找潘四爷给胡四在电影公司再找个事。  
陈白露: 噢, 你说要她当电影明星? (曹禹《日出》)
- 23) 「現代中国語文法総覧」刘月华ほか (1996, 354-356) を参照されたい。イントネーション疑問文で表される話者の心的態と感嘆詞を使って表すことのできる話者の態度はほぼ重なっていることがわかる。
- 24) 邵 (96) は“非疑問形式W+上昇調ノ?” をWが体詞性のもとの述詞性のものに分類した上で, 文末に“吗”と“呢”のどちらを付加することができるかを具体的な分類の方法として, いずれの場合も諾否疑問文と非諾否疑問文に分けられるとしている。また, Wが体詞性の時, 諾否疑問文型はみな問い返し疑問文であるとしている。(p. 26-27)
- しかし, 邵は曹禹や老舍の話劇や相声をコーパスに用いており, その多くが20年ほど前から長いもので半世紀前の作品(曹禹の「原野」)であることと, テレビドラマほど自然な状態での会話ではないことから, 現在の話し言葉とは一定の乖離が有る可能性も考えられる。
- 25) 刘 (88, p. 32) は答えを予見させる前提が有る場合“吗”疑問文とイントネーション疑問文の違いはイントネーション疑問文の方が疑問や驚きの語気がより強いことにあると指摘している。
- 26) 例えば, 以下のように疑問文の後にさらに追加質問の形で確認したいような場合には, 後続の文にはイントネーション疑問文を選択する傾向が強い。
- ①李冬宝: 本来嘛, 王师傅因为胖, 不能搞厨师工作心里苦闷。这不认识人有困难还得帮忙儿啊。  
陈主编: 是吗老王? 心里有苦闷?  
②李冬宝: 我刚刚送她上火车。  
余德利: 怎么了? 她没把感情转移到你这儿来?
- 27) 一般的には上昇調と言われるが, 陆俭明 (1993, p. 32-33) は上昇でも下降でもよいとしている。
- 28) “呢”疑問文は疑問詞疑問文, 選択疑問文の省略形であると考えることが出来る。(陆俭明 1993, p. 1) 省略された部分を意味的に考えれば題述 (comment) の省略と言えるが, 次に挙げる省略形とは音声的な特徴が異なるため, 別のものと考えた。
- 29) 陆俭明 (1993, p. 38-41) はいずれも下降調であるとしたが, 邵敬敏 (1996, p. 75) は下降調と上昇調があることを実験的な手法で明らかにした上で, 上昇調のものは問いかけの意味が加わり, 相手に答えを要求しているとした。
- 30) 速成汉语初级教程综合课本 (2) 第 37 课, p. 363 参照。

#### 参考文献

- 安達太郎 (1989) 「日本語の問い返し疑問について」, 『日本語学』 8月号。  
北京语言学院編 (1991) 『实用漢語課本』 [日本語版] 東方書店  
董燕 遠藤光暁 (2001) 『話す中国語』北京篇 1 朝日出版社  
范继淹 (1982) 〈是非問句の句法形式〉, 《中国语文》第 6 期。  
郭志良主編 (1996) 《速成汉语初级教程: 综合课本 (2)》北京语言文化大学出版社  
胡明扬 (1981) 〈北京话的语气助词和叹词〉 (上) (下), 《中国语文》第 5・6 期。  
黄国营 (1986) 〈“吗”字句用法初探〉, 《语言研究》第 2 期。  
劲 松 (1992) 〈北京话的语气和语调〉, 《中国语文》第 2 期。

- 李明 史佩雯 (1986) 《汉语普通话语音辨正》。北京语言文化大学出版社
- 刘月华 (1988) 〈语调是非问句〉, 《语言教学与研究》第 2 期。
- 刘月华, 潘文娉, 赵淑华 (1996) 『現代中国語文法総覧』くろしお出版
- 陆俭明 (1982) 〈由“非疑问形势+呢”造成的疑问句〉, 《中国语文》第 6 期。
- 陆俭明 (1984) 〈现代汉语里的疑问语气词〉, 《中国语文》第 5 期。
- 陆俭明 (1993) 《陆俭明自选集》大象出版社
- 吕叔湘 (1982) 《中国文法要略》。商务印书馆
- 吕叔湘 (1985) 〈疑问・否定・肯定〉, 《中国语文》第 4 期。
- 毛利可信 (1980) 『英語の語用論』。大修館書店
- 仁田義雄 (1995) 『日本語のモダリティと人称』。ひつじ書房
- 森山卓郎 (1989) 「文の意味とイントネーション」, 『講座日本語と日本語教育』第 1 卷, 日本語学要説 172-196, 明治書院。
- 邵敬敏 (1989) 〈叹词疑问句语义层面分析〉, 《语文研究》第 2 期。
- 邵敬敏 (1989) 〈语气词“呢”在疑问句种的作用〉, 《中国语文》第 3 期。
- 邵敬敏 (1990) 〈“X不X”附加问研究〉, 《徐州师范学员学报》第 4 期。
- 邵敬敏 (1992) 〈“回声问”的形势特点和语用特征分析〉, 《华东师范大学学报》第 2 期。
- 邵敬敏 (1995) 〈“吧”字疑问句及其相关句式比较研究〉, 《第四届国际汉语教学讨论会论文集》。
- 邵敬敏 (1996) 《现代汉语疑问句研究》华东师范大学出版社
- 王志 (1990) 〈回声问〉, 《中国语文》第 2 期。
- 杨立明 (1995) 〈三种疑问句的语调之异同〉, 『中国語文』242 号。
- 袁毓林 (1994) 〈正反问句及相关的类型学参项〉, 《语法研究与语法应用》。
- 赵元任 (1979) 《汉语口语语法》。商务印书馆
- 中村萬里・永淵道彦 (2001) 『音声言語とコミュニケーション』。双文社出版
- 朱德熙 (1982) 《语法讲义》。商务印书馆

## On the Function of Chinese Sentence Prosody and the rising Intonation in Sentence-final Position in Questions

Mitsuyo SEKI

### Abstract

This paper, using conversations as its main source of data, will examine the rising intonation of questions in sentence-final position, and will attempt to characterize their functions in discourse.

When phrases such as “是不是”, “对不对”, “好不好” or “怎么样” are appended to the end of a sentence, they usually display an even or downward intonation, but we find that if the speaker wishes to elicit agreement from the listener, an upwards intonation will be used.

Intonational questions appear in three types. In cases where they appear at the beginning of utterance, it is used to assert oneself concerning the previous utterance, or to indicate that you are joining into the conversation. When these questions appear at the end of utterance, they function to elicit the listener's opinion to what has just been said. When the question appears alone, it can signal either a response or as an initiator of another utterance.

We also discuss question sentences lacking an interrogative modal particle and elliptical questions which state the topic but lack the comment part. In this later case, the sentence displays a high pitch, with a rising and somewhat extended tone.

**Keyword:** Sentence Prosody, rising Intonation, Speech function, Additional question, Intonational question